

# 令和2年度学校自己評価システムシート ( 県立川越特別支援学校川越たかしな分校 )

目指す学校像	「生徒の可能性を広げ、未来をたくましく生きる力を育成する学校」
--------	---------------------------------

重点目標	1 社会自立に向けた豊かな学びを実現する 2 集団生活のルール・マナーを守り、幅広いコミュニケーションの力を身につけ、未来を「生きる力」を育成する 3 地域と連携した支援体制の確立と一人一人を活かした進路を実現させる 4 分校の特性を活かした、社会に開かれた学校づくりを推進する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	「目標を意識して授業に取り組んでいる生徒の割合」が横ばいであること、「自分の将来を意識して取り組む授業数」が増加していることが、生徒アンケートに表れている。このため、本年度は学習内容等を明確にし、社会の中で学ぶ機会(体験的授業)を可能な範囲で取り入れることで、生徒の自己有用感を高め社会に貢献できる姿勢を育成する必要がある。	授業力向上と特別活動の充実で達成感や自己有用感を向上させる。	①昨年度策定した職場スローガン「尊敬と対話」を踏まえ、効果的な研修、公開授業の設定などの教員同士の学び合いから、生徒一人一人の課題解決へ向けた主体的・対話的で深い学びの実現、社会の中で学ぶ機会(体験的授業)を取り入れた授業づくりを行う  ②検定試験の受験、部活動での上位大会への出場など、授業や特別活動においてより高い目標に向けて取り組む。	①左記の授業づくりについて、自己評価シートに記載し、取り組めたか。また、教員同士の学び合いが行われ、授業の満足度が向上したか(アンケートは2回実施)。 ②・検定試験等の状況 ・大会等の成績		
2	全体として落ち着いた学校生活を送っているが、ルール・マナーを守り、望ましいコミュニケーション能力を育成していくことを引き続き実施する必要がある。 また、生きる力の育成として、家庭と連携し、防災教育や非常時の対応(ハザードマップの確認等)について、共通認識を図る必要がある。	ルール・マナーを守り望ましいコミュニケーションを自立的に行う力を育成する。	①挨拶、言葉使い、身だしなみ、登下校など、ルールやマナーは、職場スローガン「尊敬と対話」を踏まえ、全職員が以下のとおり足並みを揃え繰り返し、指導する。 ア 日常の様々な場面で意義や役割を話して聞かせ、外部の方にも積極的に対応できるようにする。 イ 教員が待つ姿勢を持ち、自発的に行った場面で評価し、それをしっかりと伝える。 ウ 登下校指導を学期初めの他、不定期に実施するとともに、交通安全教室を実施する。 ②生徒の SNS 利用やいじめ防止に関する講演会や研修会を実施する。 ③平素から、学年と生徒指導部で情報共有を図る。また、生徒指導会議にて指導目標や指導方針を検討し、「誰が、いつ、どこで、何を、どのように」の役割分担を明確にしつつ組織的に対応する指導体制を機能させる。(特別支援コーディネーター、養護教諭、SC や外部機関とも連携)	①ア、イ、ウが実施できたか。  ②講演会、研修会を実施したか。また、SNSでのトラブル数が増加していないか。 ③課題を早期に発見し、組織的な対応が取れたか。		
		家庭と連携し、防災教育や非常時の対応について、共通認識を図る。	①日頃から、防災意識を向上させるため、家庭と連携し、保護者会やPTA研修会で防災教育や非常時の対応(ハザードマップの確認等)などを進めていく。	①防災教育や非常時の対応の確認が行えたか。		
3	生徒の発達段階や保護者の意見等を丁寧に把握することで、概ね生徒の希望を実現できるように取り組んでいる 今後も、生徒、保護者、関係機関と緊密に連携し、組織力を高めしていく必要がある。	キャリア教育の視点で取り組む進路指導を組織的に行う。	①進路決定に関しては、本人だけでなく保護者も含めた三者の共通理解が必要であることから、各学年での面談や、講演会、現場実習巡回などの進路行事全般について、保護者の積極的な参加を求める。 ②実習及び就労先企業をさらに開拓する。その際は、生徒の居住地に応じた開拓を進めるとともに、進路指導部と学年で情報を共有し、生徒の個に応じた指導を保護者や支援機関と連携しながら進めていく。	①保護者の進路行事全般の参加人数が増えたか。また、キャリア教育の視点に立った指導が行えたか。 ②実習先、職種数が増え、生徒の進路希望が実現されたか。居住地に応じた開拓が進められたか。		
4	学校教育目標には「自信をもって共に生きる」とあり、川越初雁高校及び地域との交流を更に活性化し、恒常的な交流を目指していく。 また、本校との交流は生徒だけではなく、保護者間の交流も深めたい。	川越初雁高校、川越特別支援学校及び地域との交流を活性化する。	①分校の情報発信をホームページ、まちこみメール、学校だより等を活用して、教務部が組織的、継続的に行う。 <b>【川越初雁高校との連携】</b> ②昨年同様の行事や生徒会の他に、部活動などで継続的な交流を行う。 ③生徒理解を高めるため、互いに授業参観、合同研修会を開催する。 ④他校などとの交流を伴う学習活動を行う。 <b>【本校との連携】</b> ⑤本校との保護者及び教員間の交流会を実施する。	①毎日のHP更新、学期に1回の学校だよりの発行が行えたか。 ②新規の交流があったか。 ③授業参観の人数が向上したか。また、合同研修会が実施できたか。 ④交流授業が実施できたか。 ⑤本校との保護者及び教員間の交流が行えたか。		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		